

かお・人・interview

2026年8月31日

所長

インタビュー

国土交通省 九州地方整備局
大分河川国道事務所長

伊藤浩和氏

ITO Hirokazu

河川では大分川・大野川の整備を進め、道路は国道10号・210号を管理。地域住民の安全・安心を支える事業を着実に推進するとともに、地域活性化やJR九州との環境整備活動など官民連携にも取り組んでいる。

所長を務める伊藤所長は、若手職員の育成と「選ばれる職場」づくりを重視し、「こうほう課」などを通じて仕事の魅力発信にも力を注ぐ。今後の方針や課題について話を聞いた。

Q所長就任にあたっての抱負

大分河川国道事務所は、大分県の中部・北部・西部を管轄し、大分川・大野川の整備・維持管理、ななせダムの管理、国道10号・210号の管理・整備を担っています。また、権限代行事業として、国道212号中津日田道路の一部を構成する三光本耶馬溪道路を整備するとともに、中九州横断道路(大分～犬飼間)の都市計画・環境アセスメントに係る調査を進めています。県都大分市中心部を流れる重要河川や、県都と県内外の主要都市を結ぶ幹線道路を所管しており、大分県の社会・経済や県民生活を支える重要なインフラを担う責任の重い事務所であると認識しています。

近年は自然災害の激甚化・頻発化に加え、インフラの老朽化も大きな課題となっています。こうした状況を踏まえ、まずは所管インフラの適切な維持管理を徹底した上で、各事業を着実に推進し、安全・安心の確保と地域の活力向上に貢献するなど、地域の期待に応えられるよう職責を果たしてまいります。



▲国道212号三光本耶馬溪道路施工状況

Q九州と大分の関わりについて

福岡市の九州地方整備局や九州各地の出先事務所で勤務してきましたが、大分での勤務は今回が初めてです。これまでは観光や出張で訪れることが中心でした。赴任後は、まず所管する河川や道路の位置関係の把握に努めています。

出身は宮崎県北部の五ヶ瀬町で、大分県とも地理的に近いことから、赴任後に各地へご挨拶に伺う中で、言葉や習慣に親しみを感じています。また、県内の行く先々で、歴史や文化など多彩な魅力を持つ地域であることを実感しています。今後も県内各地を巡り、大分への理解を一層深めていきたいと考えています。



▲大津留地区堤防強化事業

Q事務所の紹介

大分県は九州の北東部に位置し、「おんせん県」として知られています。温暖な気候のもと、海や山などの豊かな自然に加え、宇佐神宮や磨崖仏、青の洞門などの歴史・文化遺産を有するなど、多彩な地域資源があります。また、日本一の湧出量と源泉数を有する温泉をはじめ、関あじ・関さば、おおいた和牛、かぼす、しいたけなど、四季折々の豊かな食の魅力にも恵まれています。

このような地域において、当事務所は、大分市中心部を流れ別府湾に注ぐ大分川・大野川の整備・維持管理、ななせダムの管理、さらに大分県内外の主要都市を結ぶ国道10号・210号の整備・維持管理を担っています。住民の安全・安心な暮らしを支えるとともに、円滑な交通の確保による地域活性化や道路ネットワークの整備を通じた産業振興、さらには国土の発展・保身に貢献できるよう、各事業を着実に推進してまいります。

Q今年度の事業概要

＜河川事業＞

大分川・大野川の下流には県都・大分市が広がり、臨海部には九州唯一の石油化学コンビナートをはじめ、全国有数の製造品出荷額を誇る臨海工業地帯が形成されるなど、県中部の社会・経済・文化を支える重要な地

域となっています。このため、河道や周辺地域の状況など地域特性を踏まえ、洪水被害の防止・軽減に向けた治水対策を進めています。

沿川地域を水害から守るため、多様な水辺環境に配慮しながら、大分川では洪水を安全に流す能力が不足する区間で樹木伐採や河道掘削を実施し、大野川では河道湾曲部の河床低下対策を進めています。また、大分川賀来地区、大野川大津留地区では堤防を強化し、地域の安全性向上を図っています。さらに、気候変動による降雨量や河川流量の増加を見据え、河道掘削や堤防整備、堰の改築、洪水調節施設の検討などのハード対策と、利水ダムの事前放流、官民による雨水貯留施設の整備支援、居住誘導などのソフト対策を組み合わせ「大分川・大野川水系流域治水プロジェクト」を推進しています。

＜道路事業＞

大分県中部及び北西部の国道10号・210号、総延長約200kmの維持管理を行い、安全で快適な道路空間の

確保に努めています。近年、国道210号では令和2年・3年と連続して大規模災害が発生しましたが、復旧工事は令和5年3月に完了しました。

道路の改築事業では、三光本耶馬溪道路(12.8km)のうち、中津IC～青の洞門・羅漢寺IC間(8.1km)が令和6年3月までに開通し、現在は残る青の洞門・羅漢寺IC～本耶馬溪IC間(4.7km)の整備を進めています。また、渋滞解消や交通安全向上を目的に、国道10号高江拡幅(2.8km)及び国道210号横瀬拡幅(1.5km)を進めるとともに、落石等の危険回避のため

国道210号川下改良(1.1km)の整備を進めています。

さらに、今年度から重要物流道路や第一次緊急輸送道路としての安全性・信頼性確保のため、国道210号池ノ原橋において、土砂化やひび割れで損傷した床版取替の事業に着手しました。このほか、交通事故対策として交差点改良や登坂車線整備、交通安全対策として歩道や自転車通行空間の整備を進めるとともに、災害時の



▲ななせダム



▲大分川総合水系環境整備事業



▲国道10号別大地区電線共同溝事業

緊急輸送道路の機能確保を目的とした電線共同溝事業にも取り組んでいます。

現在調査中の中九州横断道路（大分～犬飼間）

については、大分県と連携し、都市計画及び環境影響評価の手続きを進めています。6月19日から一カ月間、環境影響評価準備書及び都市計画案の公告・縦覧を行いました。最近是这样した資料作成や手続きに触れる機会は少なくなっているため、職員にとっても良い学びの機会になると思います。

Q 地域との連携・協働について



▲「別大毎日マラソン大会」前日の一斉清掃

河川については、河川・ダム の利活用、美化活動、防災・環境学習といった活動を各地域の特色に合わせ、地域住民や学校、河川協力団体（大分川2団体、大野川1団体）、関係自治体などさまざまな団体と連携して取り組んでいます。大分川下流域では、令和4年8月に「大分川下流域かわまちづくり」計画が登録され、大分市と協働して、河川とまちが融合したスポーツ拠点および多様な利用が可能な魅力ある水辺空間を創出し、イベント等を通じて地域活性化を進めています。また、河川整備を円滑かつ効果的に推進していくために、沿川の地域住民の理解と参加を得ながら、河川協力団体等と連携し、自発的な活動の促進・連携、河川管理の更なる充実等に取り組んでいます。

道路については、大分県では道に関わる3団体（道守、日本風景街道、道の駅）それぞれが各活動を理解するとともに、今後の活動をより良くするため、「3つの輪」として連携し協働活動を行うことで、それぞれの特性を活かしながら、大分の地域資源を有効に活用して、暮らす人々や訪れる人々にとって、魅力的な大分を創出する取り組みを行っています。

また、令和7年度は新たな取り組みとしてJR九州大分支社と協働して国道10号（別大国道）とJR日豊本線が並行する区間の環境整備活動を行い、道路と鉄道の「道」をつなげる活動を行っています。

Q 地域建設業への要望・メッセージ

少子高齢化に伴う若手技術者の減少により、将来にわたる社会資本の整備・維持管理に大きな懸念が生じており、建設業の担い手の確保・育成は喫緊の課題となっています。建設業が持続的に発展していくためには、担い手の確保・育成を進めるとともに、現場で働く方々が「誇り」と「希望」を持って働き続けられる魅力ある業界づくりが重要です。今後も業界の皆様と力を合わせてさまざまな課題に取り組んでまいりますので、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

Q 今、力を注いでいること

今、一番考えているのは若手職員の育成です。これまでの経験を次の世代に伝え、何かを残したいという思いが強くなっています。そのためには、若手が生き生きと働ける職場づくりが欠かせません。働き方に配慮し、働きやすい環境を整えることで、「ここで働きたい」と選ばれる職場を目指したいと考えています。

また、職場の魅力を外部にも積極的に発信し、国土交通省の仕事のやりがいや社会的な意義を知ってもらうことも重要だと考えています。人材確保が難しい時代だからこそ、職場環境の充実と情報発信の両面から、次世代につながる組織づくりに取り組んでいきたいと思っています。

大分河川国道事務所
こうほう課

プロフィール



宮崎県出身 59歳
H元年4月 建設省（現・国土交通省）入省
H30年4月 九州地方整備局 企画部 建設専門官
H31年4月 国土技術政策総合研究所
道路構造物研究部
構造・基礎研究室 主任研究官
R3年4月 九州地方整備局 災害対策マネジメント室長
R4年4月 同局 道路部 道路計画第二課長

R5年4月 同局 八代復興事務所長

R7年4月 同局 企画部環境調整官

R8年4月 現職